

平成20年度病害虫発生予察特殊報第3号

平成20年12月10日
栃木県農業環境指導センター

キュウリ黄化えそ病

1 病原ウイルス：メロン黄化えそウイルス

Melon yellow spot virus; MYSV

2 作物名：きゅうり

3 発生経過

平成20年11月、足利市の施設きゅうりほ場から芯葉付近の退緑斑点とモザイク症状を呈する葉を採取し、農業環境指導センターにおいてRT-PCR法によるウイルス検定を行ったところ、MYSVが検出された。

さらに、独立行政法人九州沖縄農業研究センターに同定を依頼したところ、MYSVによるキュウリ黄化えそ病であることが確認された。なお、本病は平成8年以降、西日本を中心に18県で発生が確認されており、関東では神奈川県、埼玉県、群馬県での発生が報告されている。

4 病徴

葉では、はじめ葉脈透過を生じ、のちにモザイク、えそ斑点、退緑斑点、葉脈えそ及び黄化などの症状や生育抑制等多様な症状を示す(図1・2)。

一見するとマンガン欠乏症に類似している。

病徴が進むと、減収につながり、激しい場合には枯死する。果実にはほとんど症状が現れないが、まれに果実表面にモザイク斑を生じることがある。



図1 黄化・えそ斑がみられる葉



図2 全身に発病した株

5 病原ウイルスの性質及び伝染

病原ウイルスは、ミナミキイロアザミウマによって媒介されるが、他のアザミウマ類による媒介は不明である。

ミナミキイロアザミウマは、幼虫時にMYSVに感染した植物を吸汁することで保毒し、その個体が死ぬまでウイルス伝搬能力を持つが、経卵伝染しない。

また、汁液伝染能力は低く、種子伝染、土壌伝染はしない。

6 感染植物

(1) 自然感染が確認されている植物

ウリ科：きゅうり、メロン、すいか、しろうり

(2) 接種による感染が確認されている植物

アカザ科：ハウレンソウ ウリ科：とうがん、にがうり、かぼちゃ、へちま

ゴマ科：ごま ゴマノハグサ科：きんぎょそう、トレニア

ツルナ科：つるな ナス科：ペチュニア

ユウガオ科：ゆうがお

7 防除対策

(1) ほ場内及びほ場周辺の除草を行い、媒介虫の生息場所を根絶する。

(2) 施設開口部に銀色の防虫ネット等を張るとともに、近紫外線カットフィルムや光反射シート等を利用して、施設内へのミナミキイロアザミウマの進入を防ぐ。

(3) 苗による持ち込みに注意し、感染が疑われる苗は定植しない。

(4) 青色粘着トラップを施設内に設置し、媒介虫の早期発見に努める。

(5) 育苗期からミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。

(6) 発病株は速やかに抜き取り、埋設やビニール袋等で密封し枯死させてから処理する。

(7) 施設栽培では、収穫終了後は施設を密閉処理（蒸し込み）し、残さに寄生しているミナミキイロアザミウマの拡散を防ぐ。

8 きゅうりのミナミキイロアザミウマ及びアザミウマ類に登録のある農薬

(12月 4日現在の登録状況)

系統名	薬剤名	希釈倍率等	使用時期 / 使用回数	適用害虫
ネコナイト系	ベストガード粒剤	1~2g / 株	定植時/1回	ミナミキイロアザミウマ
	ダントツ粒剤	1g / 株	育苗期後半/1回	ミナミキイロアザミウマ
		2g / 株	定植時/1回	ミナミキイロアザミウマ
	ベストガード水溶剤	1,000倍~2,000倍	収穫前日まで/3回以内	ミナミキイロアザミウマ
その他	アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで/2回以内	ミナミキイロアザミウマ
	ｽﾌﾟﾘｰｽﾞ顆粒水和剤	5,000倍	収穫前日まで/2回以内	アザミウマ類
	コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで/2回以内	ミナミキイロアザミウマ

注 1) 農薬はラベルの表示を確認して正しく使用する。

2) 同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

詳しくは農業環境指導センターにお問い合わせください。

TEL 028-626-3086

<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>